拝啓　今年も早や１月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。今は花が一番少ない時期で、近所の公園では、山茶花が咲いています。

今回は、小西芳之助先生の『コリント人への第二の手紙講解説教』からの引用の６回目ですが、今回の「エンカウンター」の７ページ、「Example is better than precept.」（実例は教訓に勝る。）という項目には、次のようにあります。

「今まで、誤解があり、やっと誤解が解けた相手に対して、献金による奉仕を勧めるということは、幾分デリケートな問題であります。しかしパウロは、それを実例で示して説得しました。即ち、マケドニヤは、このように恵みによって、献金をしている。汝等もこれにならって欲しいと言っています。私は、実例を示すことは、実に有力な方法であると思います。我々が中学生の頃に学びましたイソップ物語に「Example is better than precept.」（実例は教訓に勝る。）という言葉があります。私は、日本において信者が少ないというのは、実例が少ないからであると思います。クリスチャンとはどういうものかという実例がない。ですから学ぼうとしても学べない。私は、聖書も研究、講義などよりも、本当のクリスチャンとはこういう者だという、その実例があれば、その方がもっと大きな伝道になると確信しています。パウロが、実例を示したのは賢明なやり方であると思います。」

小西芳之助先生ご自身が、クリスチャンの手本として、素晴らしい人でした。真実この上ない人でありました。親鸞が法然を尊敬したように、私も小西先生を、尊敬します。そして真似をしたいと思います。

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』12 月 29 日

「再びデヴィッドソンの言葉

デヴィッドソンいわく、「立派な平凡な生涯は、すべての行為の中で最も偉大なことである」と。

私は、これを説明していわく、「称名しつつ、復活の希望をもって生きる平凡な生涯は、最も偉大なる行為である」と。

私は、復活の希望をもって、称名しつつ、平凡なる生涯を送ることを切に希望する。それは、その生涯がすべての人に可能だから。」

新渡戸稲造先生『一日一言』１月１日

「初めの一歩は道の半に当たる。何事も出ようが大切。
花は芽にあり、大人の心は三つ児に始まる。今年の事業は今日の心に起こる。」

松下幸之助先生『続・道をひらく』「感謝する」

「感謝とか謝恩とかいうと、なんとなく窮屈なものと思いがちなきょうこのごろ。しかし

日々かわす「ありがとう」「おかげさまで」のひとことが、どれほど人の心を豊かにし、暮らしにうるおいと喜びもたらしていることか。

大事なことは、野の鳥や獣ではできないが、人間なればこそこれができるということである。つまり感謝できるということは、本当は人としての大きな天与の特権であるともいえよう。

その特権をお互いにもっと大事にしたい。そして身に受けた喜びを素直に謝しつつ、みずからもまた喜びを他に与える働きを重ねてゆきたいものである。」

内村鑑三先生『一日一生』12 月 27 日

「米国の詩人ホイットマンのいいました「大なる友人」は、わたしどもの友人であります。彼はわたくしがひとり杖を曳いて散歩する時の唯一の話し相手であります。凋林に葉絶えて、丘陵ために粗色を呈する時に、寒月、梢の上にかかりて、氷のごとき光を送りまする時に、わたくしどもは、一人小川のほとりに立ちて、「わが父よ」と呼び、「わが友よ」と叫びます。そして暮色蒼然として独り我が家に近づきます頃は、わたくしどもの心の中はまばゆきばかりになりまして、空天に輝く星までが、わたくしどものために讃美歌を唱えてくれます。世のこんな友を持つ者は他にどこにありますか。」

バークレー先生「ウイリアム・バークレイの一日一章」12 月 30 日

「主はよみがえりたまえり！

キリスト教信仰の中心は復活である。

復活がなかったなら、我々は十字架の話を知らなかっただろう。

復活が無かったなら、十字架は一人の善人が悲劇的な死を遂げた、というだけのことである。そのうわさは、幾世紀を経て今日までつづいたかもしれない。が、それ以上のことはなかっただろう。いや、そんなうわさは、すぐに消えてしまったにちがいない。

われわれが十字架を知っているのは、復活があったからである。キリストをキリストたらしめているものは復活である。」

カウマン先生『日の出に向かって』12 月 20 日

「人生の何の変てつもない、どんな時期にもまさって、老年期には円熟し、洗練された力があります。そのような老人の白髪の上に、神は御自身の御手を置き、彼らを聖別するために、按手して下さるのです。それは決して、彼らの仲間たちから切り離すのではありません。」

『エンカウンター』は、本号をもって２５０号を迎えました。皆様が読んで下さるお陰で、２０年以上続きました。２０年前に、千葉県志津の故佐藤れんさんから、金一封を頂き、パソコンを買いました。そのパソコンで何をはじめようかと考え、エルマー先生の小

さい文集に出ていた文章を写して、数人の人に送りました。最初は、題名のないままお送りしていましたが、南原繁先生の講演の中で、「出会い」という言葉に「エンカウンター」とルビがふってあるのを見て、「エンカウンター」という題にしました。

当初は、小西先生の「主の御名を呼ぶ」、内村先生の「一日一章」のような霊想の書から、感銘を受けた文章を写して送りました。ビリー・グラハム先生の後楽園球場における大クルーセードで感銘を受け、ビリー・グラハムの『きょうのみことば』を読んだとき、霊想の書には、その著者のエッセンスが詰まっていることを発見したからでした。そのようにして、選んだ著者と引用した本は、次の通りです。

ルツ・エルマー　エルマー先生の文集より
小西芳之助　主の御名を呼ぶ
ビリー・グラハム　きょうのみことば
パウロ　パウロの手紙より
内村鑑三　一日一生
矢内原忠雄　全集第１７巻より
南原繁　著作集第１０巻より
新渡戸稲造　一日一言
スポルジョン　朝ごとに
Ｌ・Ｂ・カウマン夫人　山頂を目指して、
神谷美恵子　著作集より
金田福一　日々の糧３６５日
バジリア・シュリンク　愛のまなざし―神の子の日ごとのよりどころ
バークレイ　希望と信頼に生きる、ウイリアム・バークレイの一日一章
ヒルテイ　　眠られぬ夜のために、
相沢良一　黒潮の神学、
ミス・モーク　ミス・ローラ・モーク　その信仰と生活
ミス・モーク　エデンの架け橋―モーク先生の教えと手紙
小西芳之助　ローマ人への手紙講解説教
石館守三　はまなすの小道－私の歩んだ道、他
小西芳之助　同志会金曜会語録
内村鑑三　続一日一章
新渡戸稲造　人生雑感
カウマン夫人　日の出に向かって
小西芳之助　わが主イエスよ
佐生健光　　キリスト教と称名
小西芳之助　コリント人への第１の手紙講解説教

小西芳之助　コリント人への第２の手紙講解説教

こう並べてみますと、キリスト教のあるテーマの立派な書庫が出来上がっていました。これらのバックナンバーは、ウエブサイトに保存されていますから、ウエブサイト（http://encounter.agape.wjg.jp/）を開いて、「これまでに取り上げた本」をクリックして頂くと、何年の何号かが分かりますから、そこをクリックして頂ければ、パソコンで読むことが出来ます。毎月、こつこつと感銘を受けた文章や大切だと思った文章（主に聖霊を受けるにはどうすればよいかということに関心がありました）を、毎月１０ページずつ写していましたら、２０年経ったら、２０００頁以上の大書庫（アーカイブ）が出来上がっていたという次第です。ご参考にして頂いて、過去のバックナンバーからとりだして、眺めて頂ければ幸いです。ウエブサイトへの掲載の提案は、親友の故米倉安雄さんから、勧めを受けました。また、ウエブサイトの維持管理は、米倉さんの同僚で友人であった兵庫県加古川市にお住いの舩倉昌之さんにお願いして、掲載して頂いております。

新型コロナはいまも流行がやみませんが、インフルエンザと同じ扱いにすることが検討されています。当面は、マスク、手洗い、うがいなどはこれまで同様実行されて、またワクチン注射は打てるときに打つという方針で行かれまして、十分ご注意下さるようお祈り申し上げます。

1 月 25 日　　山口周三

エンカウンターの読者各位